

# アルミアングルTA-250セット

## 施 工 要 領 書

### 1. 工程計画

本工事施工にあたり、安全作業を最優先に、本現場に適した工程計画を監督係員と事前に打合せを行い、承認の上で実施する。

本書に記載されていない各工程の細部に関しては、監督係員とその都度打合せを行い、承認の上で実施する。

材料の納期時期・保管場所、施工下地の状況やその他関連工事についても監督係員と事前に打合せを行い、承認を得る。

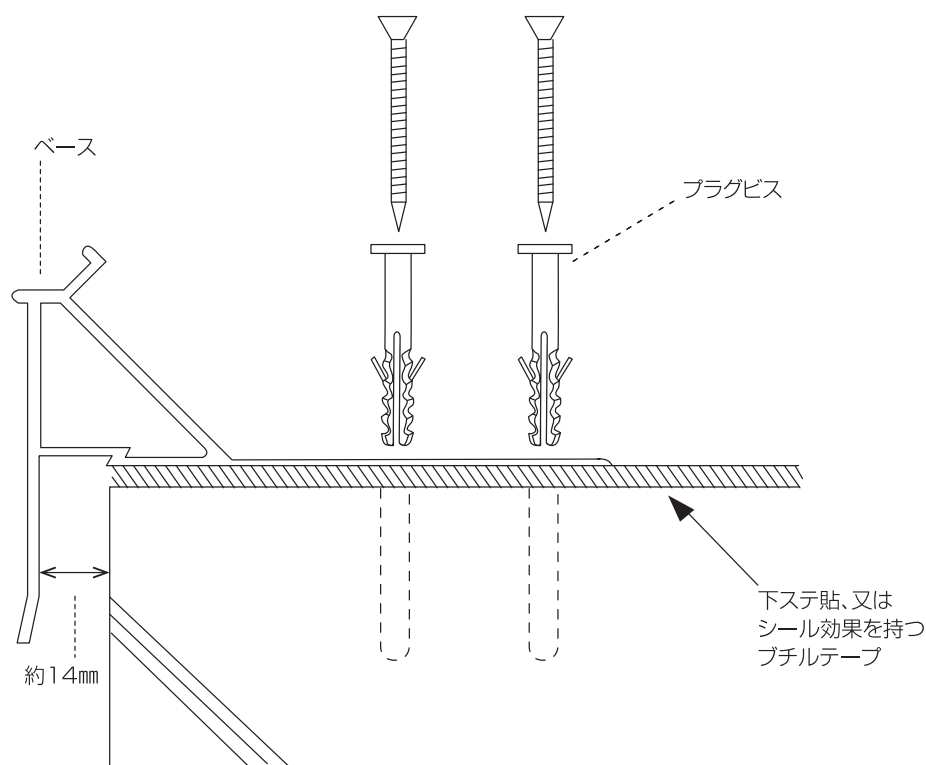
### 2. 下地条件

本工事の下地条件について監督係員と事前に打合せを行い、かつ施工に先立ち、下地状況が打合せ通りであることを点検・確認する。

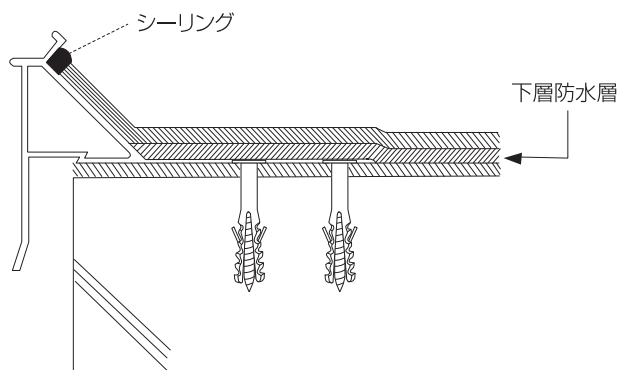
- ① コンクリート直仕上げを原則とする。
- ② 雨仕舞材との間に大きな隙間が生じないように、不陸の無い平滑な仕上げと勾配を付けず、隅角部の欠損が無いこととする。
- ③ 施工前の下地点検時に取り付けの支障になるような欠損・汚れ・突起等を認めた場合、補修・清掃を行う。
- ④ やむを得ずならしモルタル塗りで補修する場合には、薄塗り用モルタルを用いて厚さ15mm以内で仕上げる。その場合には、ならしモルタルの厚みを考慮した長さのビスを採用する。
- ⑤ 下地は十分に乾燥させる。

### 3. 施工要領

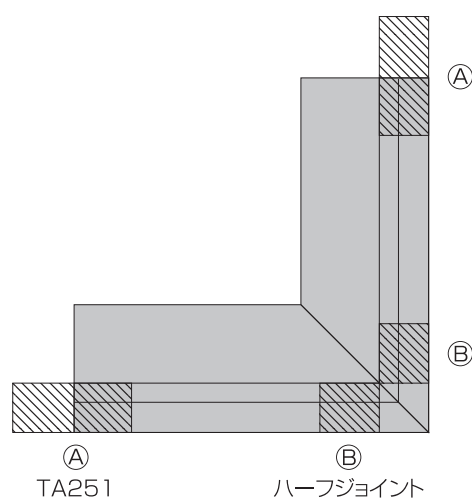
- ① TA250(ベース)の割付けは、一般的に、先ずコーナー位置を決めてから、中央に向かって両側から定尺品を割付けて行き、中央位置で端尺品を入れて調整する。その他の方法もあるので美観と経済性を考慮して本現場に適した方法を決定する。また、端尺品はビス穴が450mm以下の間隔とする。
- ② 防水工事用プライマーを塗布・乾燥後、雨仕舞材と下地の隙間から風が吹き込まないように防水シートで別途下ステ貼りを行なうか、シール効果を持たせたブチルテープを、裏面の剥離紙を剥しながら、外壁際に合わせて取り付け面に突き付けで貼る。
- ③ ブチルテープの時は、上面の剥離紙を剥がし、外壁面の通りを確認しながらTA250(ベース)を仮置きし、その内側の際に基準線を引く。TA250(ベース)外面と外壁面の間隔を14mm程度とする。
- ④ TA250(ベース)のジョイント部は突き付けとする。
- ⑤ TA250(ベース)に千鳥で下穴を空けてTA250(ベース)の上からコンクリートに穴を開ける。コンクリートの切粉はスポイトを用いて、必ず穴から吹き出す。
- ⑥ TA250(ベース)とコンクリートの穴位置をずれの無いように合わせて、ビスを差込み、電動ドライバーなどで締め付ける。



- ⑦ TA250(ベース)取り付けの後、防水層を施工する。複層使用の場合には、下層防水層をTA250(ベース)の立上り部手前まで張りがけ、最上層を立上り部まで貼り上げる。
- ⑧ 防水層の貼り仕舞端部は、シール材を用いて十分にシールする。



- ⑨ 防水層施工完了後、先ず、コーナー端部①にTA251(ジョイント・中間フック)を嵌め込み、コーナー端部②にハーフジョイントを嵌め込む。直線部は、1m間隔にてTA251(ジョイント・中間フック)を嵌め込む。ジョイントが完全に嵌め込まれているか、外面下端部がTA250(ベース)に完全に嵌まっているか確認する。入りにくい場合は、あて木等を用いてハンマーで軽く打ち込む。



- ⑩ TA252(キャップ)ジョイント部の間隔は5mm程度とし、その内側にTA251(ジョイント・中間フック)が入る。TA250(ベース)とTA252(キャップ)のジョイント部が一致しないように注意し、TA252(キャップ)は、センターから割付ける。TA252(キャップ)が1m間隔にてTA251(ジョイント・中間フック)外面下端に完全に嵌まっているか確認する。入りにくい場合は、あて木等を用いてハンマーで軽く打ち込む。

